

令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	国語	科目	古典B	単位数	2	学年	2年	類型	カレッジコース
教科書	新編古典B			副教材	新編古典B 学習課題ノート				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点					学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				①	②	③	④	⑤	学習のねらい
1 学期	4	説話に親しむ	宇治拾遺物語 古文の読み方を確認する。	◎			○		<p>1学期には「枕草子」や「伊勢物語」等の平安時代の文学を読み味わいます。登場人物についてまとめたり時代背景について調べたりして、理解を深めていきます。</p> <p>2学期には、漢文の「史記」や諸子百家の思想について学んでいきます。漢文の返り点など基本的な文法事項を確認しながら読み進めます。古文では、日本史に登場する人物にも触れながら「大鏡」を読み味わいます。</p> <p>3学期には、「源氏物語」を読みます。平安時代の文化や風習について理解を深め、世界最古の長編女流文学を楽しんで読んでいきます。</p> <p>学習の目標</p> <p>古典を読む能力を養うとともに、ものの見方・感じ方・考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てます。</p>
		故事と小話	小話 漢文の読み方を確認する。 故事の背景を知り、漢文の世界に親しむ。	◎			○	◎	
	5	物語を読む	竹取物語 物語の内容を叙述に即して読み取る。	○			◎	○	
		唐詩と文	唐詩 漢詩の決まりを理解する。 漢詩を読んで、豊かな詩情を味わう。	◎			○	◎	
	6	随筆を読む	徒然草 作者のものの見方や考え方について理解を深める。	○			◎	○	
		唐詩と文	文 簡潔で含蓄のある表現から明確な主張を読み取る。	◎			○	◎	
	7	和歌の世界	小倉百人一首の世界 和歌の歴史や決まりについて学ぶ。 和歌に表れた作者のものの感じ方や表現の工夫を理解する。	○			◎	◎	
史記を読む		項羽と劉邦 『史記』の特徴を理解する。 音読し、語句や句法を理解して書き下し文にする。 歴史上の人物の行動や心情について考える。	◎			○	◎		
2 学期	8	随筆を読む	徒然草 作者のものの見方や考え方について理解を深める。	○			◎	○	
		唐詩と文	文 簡潔で含蓄のある表現から明確な主張を読み取る。	◎			○	◎	
	9	和歌の世界	小倉百人一首の世界 和歌の歴史や決まりについて学ぶ。 和歌に表れた作者のものの感じ方や表現の工夫を理解する。	○			◎	◎	
		史記を読む	項羽と劉邦 『史記』の特徴を理解する。 音読し、語句や句法を理解して書き下し文にする。 歴史上の人物の行動や心情について考える。	◎			○	◎	
	10	随筆を読む	徒然草 作者のものの見方や考え方について理解を深める。	○			◎	○	
		唐詩と文	文 簡潔で含蓄のある表現から明確な主張を読み取る。	◎			○	◎	
	11	和歌の世界	小倉百人一首の世界 和歌の歴史や決まりについて学ぶ。 和歌に表れた作者のものの感じ方や表現の工夫を理解する。	○			◎	◎	
史記を読む		項羽と劉邦 『史記』の特徴を理解する。 音読し、語句や句法を理解して書き下し文にする。 歴史上の人物の行動や心情について考える。	◎			○	◎		
12	随筆を読む	徒然草 作者のものの見方や考え方について理解を深める。	○			◎	○		
	唐詩と文	文 簡潔で含蓄のある表現から明確な主張を読み取る。	◎			○	◎		
3 学期	1	日記を読む	土佐日記 作者の境遇を確かめながら、その心情を理解する。	○			◎		
		寓話を読む	寓話 人間や政治についての古代中国の様々な考え方を読み取る。	○			◎		
	2	軍記物語を味わう	平家物語 表現の特色に注意して、軍記物語を読み味わう。	◎			○	◎	
		三國志の世界	十八史略 登場人物の性格や心情を読み取る。 人間の在り方について考える。	◎			○	◎	
	3	日記を読む	土佐日記 作者の境遇を確かめながら、その心情を理解する。	○			◎		
		寓話を読む	寓話 人間や政治についての古代中国の様々な考え方を読み取る。	○			◎		
	軍記物語を味わう	平家物語 表現の特色に注意して、軍記物語を読み味わう。	◎			○	◎		

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ④：読む能力 ⑤：知識・理解

◆学習方法のポイント

【古典の目標】

- 古典は、長い年月を通して多くの人々の鑑賞に堪え、今もなお広く親しまれている作品です。古典の授業では、それらの作品を読むことによって、先人の優れたものの見方や考え方を学びます。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- ノートに本文を写し、古語辞典を用い口語訳していきます。
- ノートは、板書に加えて口頭で示された重要ポイントも記し、工夫された「自分のノート」を作りましょう。
- 口語訳を利用して本文の内容理解深めます。また、古典文法や有職故実についても、その都度おさえていきます。
- 3学期は、1年の国語総合でやった訓読のきまりを復習し、故事・小話やを読み味わいます。

【家庭学習】

- 古語辞典も使用して、予習・復習を心掛けましょう。
- 授業で取りきれなかったノートは、家できちんとまとめておきましょう。

【定期考査】

- 普段の授業を大切に、日ごろから勉強しておきましょう。

【その他】

- その他、中国文学なども図書館の本を利用して読んでいきたいと思えます。平日頃から読書を心掛けましょう

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①関心・意欲・態度 ④読む能力 ⑤知識・理解の三つの観点から評価します。ただし、定期考査を重視します。	
評価の規準	1学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	2学期	中間考査、期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	3学期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	学年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均

